

ふすま通信

第 10 号

令和 3 年 1 月 1 日

ふすま同窓会



新設、百年の碑



あけましておめでとうございます。

ふすま同窓会会長 野村 一 芳

(人文1回)

皆様には、お健やかに過ごしの事とお喜び申し上げます。また、常日頃から同窓会の活動にご理解ご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

昨年は、ふすま同窓会の母体であります旧制山形高等学校の創立100年の節目の年でしたが、ご承知の通り新型コロナウイルスの蔓延により式典祝賀会の一連の事業を延期せざるを得ない事態となりましたこと皆様にお詫び申し上げます。母校山形大学でも、新1年生は、数か月しかキャンパスでの授業が受けられず、オンラインで授業が行われました。この様な中でも、予定していた「ふすま同窓会百年の碑」と「大学学生支援事業」については、10月24日に玉手山形大学長を始め来賓の方々を

お迎えし限定された方々の参加でしたが、天候にも恵まれ、無事建碑式・ふすまリフレッシュルーム開所式を挙行することができました。有難うございました。皆様に、感謝申し上げます。

今年は、改めて「ふすま百年記念祭」を来る10月30日（土）山形市のホテルメトロポリタン山形で行います。コロナも愈々ワクチンが供給されるとの報道がなされておりますので開催は可能と判断しております。関連イベントも予定しております。開催に当たっては、これまでに、多くの会員の皆様からご協力ご協賛をいただいております。コロナに打ち勝った記念祭にしたいと考えております。

皆様の参加をお待ち申し上げます。元気で懐かしの山形に集まりましょう。

百年記念祭の開催テーマ —「伝統を紡ぎ未来に続く」—

この通信は、年会費及び終身会費を納入されている会員を中心にお届けします。

百年記念祭の進捗状況報告

ふすま同窓会百年記念祭実行委員長 高橋 節（人文2回）

○コロナ禍で事業企画の見直しを継続中

ふすま同窓会報第68号(令和2年8月1日)で新型コロナウイルスの感染拡大を受けた開催延期と改めて設定した時期をお知らせしました。

その後、夏の第2波そして現在進行中の第3波と、一向に沈静化する傾向が見られない中で記念祭行事で利用する施設等におけるコロナ対策（三密防止等）の状況、受入態勢（特に、収容人数）の確認を進めながら検討作業を行っています。

- ・ 期日／令和3(2021)年10月30日（土）
- ・ 会場／ホテルメトロポリタン山形
 - ・ 記念講演会（12：30から）
 - ・ 記念式典（14：00から）
 - ・ 記念祝賀会（15：30から）

○令和3年度総会で決定する

今後の新型コロナウイルスの感染動向を注視しての判断になります。感染防止に有効なワクチン開発などの新しい話題も見られます。本年5月開催予定の同窓会総会までに情勢分析を進

め、最終判断を行います。

この間、「記念祭を開催する。」という意思の下で、皆さんとの連携を図りながら検討を進めていきますので、誘い合わせての参加をお待ちしています。

（参加申込受付継続中）

当面、今月16日(土)には、こうした状況を受けて実行委員会を開催し、事業企画の検討状況報告と進行計画の調整を行うこととしています。

○募金活動を継続しています

募金状況のまとめについては、別紙としましたのでご覧ください。これまでいただきました募金については、改めてお礼申しあげます。

また、募集期間を令和3年9月30日まで延長しています。引き続き、ご協力お願いします。

○予定した計画に沿って進めた事業

「大学・学生への支援」と「記念碑建立」については、当初計画通りに進めましたので、以下、その概要をお知らせします。

百年記念祭事業 1

「ふすまりフレッシュルーム」開所式

令和2年10月24日(土)に行われた「ふすまの集い」のイベントで、「ふすまりフレッシュルームの開所式」が行われた。野村会長、玉手学長の挨拶に続いて、高橋実行委員長より、清



リフレッシュルーム表示板の前で

左より、高橋実行委員長、野村同窓会長、清塚キャンパス長、玉手学長、是川人文社会科学部長、大西理学部長、鈴木人文社会科学部副学部長

塚キャンパス長に目録の贈呈が行われた。司会者（阿部事務局長）より、テント四張り（三張りは建碑式において使用）とリフレッシュルームに備えられたテーブル大十二台・小二台、椅子二十四脚、ソファ四台、パネル十五枚、流し台、名入り看板を寄贈したと紹介がありました。多くの学生に利用されることを期待したい。



リフレッシュルーム室内全景
(室内を見学する参加者)

百年記念祭事業 2

「百年の碑」 建碑式

令和 2 (2020) 年 10 月 24 日 (土) 午前 9 時から旧学寮跡の「ふすまの碑」の前で、「百年の碑」の建碑式が執り行われた。

この日は、元々「百年記念祭」が予定されていた当日であった。しかし、新型コロナウイルス禍の影響で各種行事は一年延期になったので、せめて当年中にやれることだけはやっておこうという思いで「ふすまの集い」と称して「建碑式」と「ふすまりフレッシュルームの開所式」を挙行了したのである。

幸い前日までの雨も上がり晴天に恵まれ、晴れの式典には打って付けの日和であった。

参加者は、大学より玉手学長はじめ是川人文社会科学部長、大西理学部長、清塚キャンパス長、両副学部長など十数名。同窓会関係者は野村会長を筆頭に 7 名の副会長、鈴木、長沼の両顧問、旧山高代表は西村、新田の両先輩、仙台支部の穴戸会長、宮城事務局長に加え、石碑施工業者の(株)ナイガイの米本社長で、総勢は 40 余名となった。

会の進行は、大岩記念碑班長が担当し、野村会長の式辞、玉手学長の祝辞、米本社長への感謝状贈呈、安彦記念事業部長の概要説明、旧山高生の紹介、寮歌斉唱と順調に進み、最後は参加者全員新しい「百年の碑」を囲んで記念写真の撮影を行った。

なお、建碑竣工祝い品として、市内七日町の老舗、三鴻深瀬菓子店製の紅白饅頭が参加者全員に配られた。

また、マスコミからは同窓会員で山形新聞本社勤務の坂本由美子氏の手配を受けた女性記者が取材に訪れて、翌日の紙面に詳細な記事が掲載された。



記念碑揮毫：細谷孝司氏 (人文 1 回)



山高卒 西村、新田両先輩



式辞：野村会長



寮歌斉唱：指揮 宮城仙台支部事務局長／来賓席は同窓会寄付のテントを使用



「百年の碑」を囲んで喜び合う参加者

第32回ティーデマン・ふすま賞

第32回(通算51回)ティーデマン・ふすま賞の授賞式は、2020(R2)年10月24日、理学部の「ふすまホール」で執り行われた。今年の受章者は、別掲のとおり、人文学部人間文化学科卒業、理学部数理科学科卒業、大学院理工学研究科博士後期課程1年の3名であった。



左より受賞者の佐藤初洋、神保拓哉、尾田凌一の諸君

式には、玉手学長をはじめ、審査委員長の大西理学部長、是川人文社会科学部長、野村ふすま同窓会長、鈴木・金井塚両学部副学部長、指導教官らが参加し

授賞式後、出席した尾田さんと神保さん、佐藤さんから受賞を喜ぶ挨拶があった。

受賞者と研究題目

・尾田 凌一

「未来への想起 “Der Ausblick der deutschen Erinnerungskultur in die Zukunft”」

・神保 拓哉

「パーシステントホモロジーと画像処理を用いたX線偏光画像の分類」

・佐藤 初洋

「蔵王火山、御釜火口活動期におけるマグマプロセスとその時間スケール」

以下は、受賞者から寄稿されたものです。

受賞論文概要

神保 拓哉

X線偏光の電子飛跡を観測した画像を解析することによってブラックホールが本当に回転しているのか、その詳細を調べることができます。

これらを実現するために、現在画像解析で注目されているパーシステントホモロジーの理論を応用した画像解析手法とAI技術を用いて画像データの解析を試みました。AI技術を用いた画像の観測はこれまでに何人かの研究者が試みてきたようでしたが、なかなか良い精度が得られていないようでした。うまくいかない背景には画像の特徴がうまくまとまっていないことにあると私たちは考えました。そこで、パーシステントホモロジーを用いた画像解析で画像の種類を細分化し特徴ごとにAI技術を適応させることで、より精度の高い分析結果を得ることができました。

この研究はまだ完成しておらずAI技術の適用にまだ改善の余地があります。今回着眼したパーシステントホモロジーの画像解析を利用し、今後より精度の高い分析を可能とすることを願います。

受賞にあたって

研究がきっかけでAI技術の知見を広げることができました。研究に協力してくださった教授、研究者の方々へ感謝し今後も得た知識を生かしていけるよう励んでまいりたいと思います。

受賞にあたって

佐藤 初洋

この度はティーデマン・ふすま賞という伝統ある賞を頂き、大変嬉しく思います。推薦・選出して頂いたふすま同窓会および山形大学の関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

本論文は、噴火が危ぶまれる活火山・蔵王山を対象に、地下のマグマがどれほどの深さや温度で存在し、いかにして噴火に至ったのかを明らかにしようとするものです。火山噴火のメカニズムの解明は防災上非常に重要な課題ですが、地下の現象を直接観察することは非常に困難であり、未解明の点が数多く残されています。そこで噴火したマグマが冷えて固まった岩石を観察・分析することで、火山の地下で何が起っているのかを解明したい、というのが研究の主な動機となります。

山形大学は全国の研究機関が共同して火山研究の推進および研究者の育成を行う「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」に参加しており、慣れ親しんだ場所で最先端の研究に触れることができる、理想的な環境であると感じています。今回の受賞を励みに、今後もより一層研究に精進する所存です。

最後になりますが、日頃よりご指導を頂いております先生方、いつも励ましの言葉をかけてくれた家族や友人の皆様に深く感謝申し上げます。

ティーデマンふすま賞授賞式・昼食懇談会



昼食懇談会
理学部2F 旧事務室

授賞会場「ふすまホール」にて

前列左より 伴指導教員、脇指導教員、尾田、神保、佐藤の
各受賞者、野村同窓会長、玉手学長
後列左より 鈴木人文社会科学部副学部長、大西理学部長、
渡辺指導教員、是川人文社会科学部部長、
金井塚理学部副学部長



ふすま同窓会支援・協賛事業

第10回「安達峰一郎記念世界平和弁論大会」

山形大学小白川キャンパス人文社会科学部 1号館において、ふすま同窓会が後援し、山形大学都市・地域学研究所と山辺町が主催する、「第10回安達峰一郎記念世界平和弁論大会」が、令和2年11月8日（日）に開催された。今年はコロナ感染症発生ということで、無観客になり、関係者のみの参加のもと実施された。

全国より、応募された原稿を審査し、予選を通過した県内外の中学生5名、高校生5名が弁論大会に臨み、例年にない高いレベルでの弁論大会となった。最優秀賞には、中学生の部で、八女学院中学校1年の廣重凛さん、高等学校の部では、山形県立山形東高等学校2年の寒河江茜里さんが受賞した。

廣重さんは「本命チョコレートから」をテーマとして、カカオ栽培に従事している児童労働者の問題を取り上げ、多くの子が教育を受けること



ができない状況を知り、子供の学ぶ権利が保障される社会の実現を訴えた。寒河江さんは、「私の考える平和について」をテーマに、自らの病気をから体験したこと、ヘルプマークをつけていたが席を譲ってくれる人がいなかったことなどを基にして、他者の状況を知り、誰もが生きづらさを感じないで生活できる社会となるよう行動することの重要性を主張した。

本論文大会は、安達峰一郎博士は、山辺町出身の国際法学者で、アジア人として初めて「世界の良心の府」と言われる常設国際司法裁判所長を務めた。博士を顕彰し、次世代を担う中学・高校生が博士の精神を学び、平和の意義を考える目的で開催され、10回目を迎えた。

ふすま同窓会野村会長が審査員として参画し、優秀者に「ふすま同窓会長賞」として記念の盾と図書券を贈りました。(H.O)



ティーデマン碑供養・仙山交会

太田 裕士 (理1回)

ティーデマン碑供養の案内をいただいた。案内には例年開催しておりました交流を芋煮会は中止させていただきますとの記載があった。コロナ渦の中では致し方ないかと思いつながらも参加することにした。9月12日(土)に実施された。参加者はやはり例年よりは少なく16名(うち3名は仙台支部からの参加者)であった。例年通り、10時開催ということで、北山形駅より山寺駅9時13分着の電車に乗車した。駅でみんなと合流して、立石寺根本中堂に向かった。どんよりとした空模様で雨が降るのか一寸した不安を感じながら歩みを進めた。橋を渡る頃から生憎小雨が降り始めた。コロナの影響で商店の並ぶ通りもやはり閑散としていた。石段を一步一步踏みしめながら根本中道へ向かった。ティーデマン碑供養は事務局長の司会で進められ、最後に、清原貫主を囲んで記念撮影をした。

平成30年に植樹したシラカバに木が残念ながら今年枯れてしまったので、終了後、短時間であったが、野村会長、高橋実行委員長、安彦さん、渡辺さんと清原貫主とで、シラカバを再度植樹することについて話し合いが行われた。現在、令和3年



植樹したシラカバ
令和元年9月撮影

3月に植樹を行うということで話が進められている。

山寺駅に着いて、阿部さんより「昼食みんなはどうですか」という提案で昼食をとることとなった。駅前の店は営業をしていないということで、阿部さんは走り回って、参加者全員を受け入れてくれる店を探してくれた。みんなで一緒に駅に来た道を戻り、橋近くの店で昼食をとることとなった。芋煮定食を注文して食し、寒さで冷えた体を温めることができた。時期が時期なので、静かな会食となった。



ところで、私ごとではありますが、父が彫金師でティーデマン賞のメダル作成に関わった関係で、ティーデマン先生に縁を感じるものがある。試作したメダルを、小学生?のとき、父より譲り受けた。当時、先生のことは何も知らず、メ



ダルを文鎮として使用していた。そのメダルは現在同窓会館に保管してある。

試作されたメダル



ふすま同窓会支援・協賛事業

第 48 回 模 擬 裁 判 公 演 「 血 婚 」



本年度もふすま同窓会にご協賛をいただき、今年で48回目となる模擬裁判公演を令和2年12月4日、5日に山形市民会館(大ホール)で開催いたしました。

模擬裁判公演は昭和48年から山形大学模擬裁判実行委員会が主催となり、刑事、民事、行政裁判でその時代に即した法律問題や社会問題を幅広く取り上げてまいりました。市民の皆様には裁判を身近に感じ、理解を深めていただくということを趣旨に活動しています。

本年の公演では「DV問題」を取り上げました。DV被害の当事者である妻と加害者である夫、そして妻の良き理解者であった友人を中心に「DV問題にどう向き合うか」を描きました。表面化しにくいDV問題に対して当事者は何ができるのかはもちろん、第三者である友人からの視点も取り入れることで、より多くの方がこの問題を身近に感じ、自分の周りでDVが起こった場合にこの問題をど

う解決に導くかについても考えていただけたかと思います。

また、感染症拡大に伴い、ご来場のお客様には人数制限や消毒の徹底など多くの感染症対策にご協力いただきました。実行委員会としても演者がマスクを着用したまま演技するなど、これまでにない対応を迫られましたが、こうして無事に第48回公演を終えることができたのはお客様のご理解とご協力の賜物でございます。ありがとうございます。

当委員会は12月の公演終了を持ちまして49代へと代替わりいたします。今後も先輩方からの伝統を守りつつ、さらに飛躍することを切望するとともに、ふすま同窓会をはじめ皆様には今後とも変わらぬご支援・ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

(山形大学模擬裁判実行委員会48代委員長
人文社会科学部3年 穂波怜緯)

最近の学生食堂風景

コロナ禍で4月の新学期から前半は夏休みが終わるまで、大学構内は閑散の一字。新入生も登校できず、ガランとした自転車置き場が寂しさを象徴していましたが、10月からの後期には対面授業が始まり、やっと大学内にも活気が戻ってきた感があります。



※通学用自転車がようやく戻ってきました

ところで、人が集まれば食の問題は避けて通るわけにはいきません。お昼になれば腹がすくし、そしたら学

食に行くのが当然。それで食堂側もいろいろの対策を講じております。



※アクリル樹脂のシールド板使用

街の中の食堂やレストラン同様。まずは検温、アルコール消毒、密を避けるためのバリアーシールドなど……。学内でも厚生会館、大学会館の食堂では徹底した対策を行って営業中です。

しかし、1月からは、再びオンライン授業に戻る様で、仲間同士楽しいランチタイムを過ごすのも難しくなりそうです。(H.M)

事務局だより

本来であれば、当通信の「事務局だより」の冒頭は、『昨年の10月24日のふすま同窓会百年記念祭が無事終了し、満足感、達成感に浸りつつ、虚脱感に包まれている・・・』という文言が並ぶはずであった。

しかしながら、新型コロナウイルスの第2波、第3波といわれる感染拡大により、百年記念祭の1年延期はもとより、年内に予定していた同窓会のほとんどの事業が、中止を余儀なくされたのである。

その禍いは、世界規模でのスポーツ祭典「東京オリンピック」の延期にも及び、今なお勢い衰えず、日々の生活にも大きな影響を与え続けている。まさに前代未聞の異常事態であり、早期のワクチン開発を切に願っている。

その一方で、新たな発見が2つあった。

1つには、マスク着用の重要性和効用についての認識を新たにしたこと。マスク着用のみならず、うがい・手洗いの励行、手指消毒、こまめな換気、3密回避等の感染防止策が奏

功してか、昨年は、インフルエンザ発生のニュースもほとんど聞かれなかった。

2つには、オンライン活用の方が一気に進展したこと。

山形大学でも前期はオンライン授業となり、授業形態の選択肢が広がった。オンライン活用の方は、経済的な課題は残しつつも、あっという間にあらゆる分野に広がったのである。

我が同窓会の関西支部においても然りで、昨年12月に、「オンライン同窓会」がtrial開催されたのであった。

さて本年は、予定した事業は全て行う決意で臨み、何より10月30日の百年記念祭については、実行委員・事務局員一丸となって、更なる準備を進めているところである。

10月には、山形の自然、食を十分に堪能していただきたいと思います。皆様のご来形を心よりお待ちしております。

阿部慎一（人文4回）

（お知らせ）

この度、同窓会会員名簿が更新になりました。
不要名簿がありましたら、同窓会館にお送り下さい。

干し柿珍風景

干し柿は大きく分けて、吊るし柿と串柿がありますが、最近は高級感が増し、子供時分のおやつだった頃に比べると簡単には手が届かなくなっておりますね。

同窓会館の隣家では、今風の建物なので、軒先が短く柿を吊るすスペースがない様で、苦肉のアイデアがこの様なビニール傘の利用だったと思います。



昨秋、事務室の窓から毎日眺めていましたが、なんとなくユーモラスで、小鳥たちに啄まれてはしまわないかと少なからず心配していました。時が経ち甘い干し柿になったらどんな人の口に入ったのか、チョット気掛かりです。（H.M）

初 オンライン同窓会に挑戦！

昨年の12月6日（日）12時、「オンライン同窓会」なるものを始めて開きました。

関西の里村支部長の呼びかけに応じて、関西支部、東京支部の会員をはじめ、米沢工業会関西支部の皆さんなど、奈良、京都、大阪、東京、滋賀、山形からの参加で総勢12名。

Zoomを扱うのは初めての人を含め、まずまずの成果ではなかったかと自信を深めて、こ



れからの同窓会活動に一段の進歩をもたらそうと誓い合ったひとときでした。

（H.M）

編集後記

第10号をお届けします。本来ならば発刊10年目という節目で「百年記念祭」成功の速報記事を掲載予定でしたが、コロナ禍でそれも叶いません。

しかし、同窓会もこのような状況下で、百年の碑建立、リフレッシュルーム開所や各種現役学生に対する協賛・支援事業等出来るだけのことは実行しております。今年の10月には間違いなく記念の祝賀祭が催され、次号には華々しい成果記事が掲載出来ることを願っております。 松田博之（文理13回）

ふすま通信 第10号

発行者 / ふすま同窓会

山形市東原町 1-9-4

電話 / 023-633-9927

FAX / 023-633-9927

http://www4.plala.or.jp/fusuma/

E-mail: fusumadosokai@yahoo.co.jp

印刷所 / 坂部印刷株式会社